

東京家政大 尾中 明代

1. 第1報および第2報において男子服装の洋装化について述べてきたのであるが、これについて女子の服装の洋装化が、いつのころから、いかなる階層に現われはじめ、またそれがどのような形をもって着用されるようになったかをたどろうとするものである。

女子の洋装は男子の場合と異なり、日常服としてより礼服として採り上げられ、宮中や貴族の間に着用された。

一般社会の婦人の間では、制服等特殊なもの以外にはほとんど普及されなかったが、鹿鳴館時代に上流の婦人の間で豪華な洋装をする時代が一時期を限って出現した。宮中においても次第に西洋服装を採用されるようになり、後年におよんでいる。これによって婦人服業界も一時繁昌し、高級なものを仕立てるようになり、ミシンも従来より改良されたものが輸入されるようになって、洋服裁縫の技術も向上してゆくようになった。

2. 各文献および資料等の調査による。

3. 女子洋装の推移をたどって、これが今日の服装にいたる過程の一部を見る。